

教員採用試験等に係る贈収賄事件から2年を迎えて

6月14日で、教員採用試験等に係る贈収賄事件から2年が経過します。

私たち大分県教育委員は、当該事件が教育行政に対する県民の皆様の信頼を根底から失墜させたという事実、特に、本県の教師を目指してきた、また、目指そうとしている若者たちの心情に思いをいたすとき、この事件の重大さを今一度真摯に受け止め、将来にわたってこの事件を決して風化させないよう、今後も教育行政の改革に果敢に取り組んでいく決意です。

この2年間、あのような事件を二度と起こさないよう、権限と責任が明確で透明性の高い教育行政システムを確立するため、試験制度の抜本的な見直しを始めとする各種改革を着実に実施してきました。

その上で、本県教育の質の向上を図るため、全市町村の教育委員をはじめ、校長会、PTA団体や、学校現場の教職員との直接対話などを通じて、地域・学校現場の実情や課題認識の共有を進めてきました。また、地域毎の教育の現状・課題をそれぞれの地域に示すことにより、地域総ぐるみの教育向上を図る取組みが県内各地で始まっています。

教育再生の芽は着実に現れています。

今年度は、このような取組みをはじめ、各学校や地域で効果を上げていく実践的な取組みを「点から面」へ「徹底」して展開することを重点に、改革を進めてまいります。

また、本年10月には新たな教職員人事評価制度を本格導入し、頑張っている教職員を正に評価するとともに、各学校や地域の地道な取組を積極的に紹介し顕彰すること、さらに教職員の健康管理にも十分に意を払いながら、現場の教職員がこれまで以上に意欲をもって仕事に取り組めるようにしていきます。

あくまで子どもを中心に据え、子どもの挑戦や自己実現をしっかりと支える教育行政を進めることで、保護者・県民の皆様方に、大分県の教育は変わってきている、良くなってきていると実感していただけるよう、全力で取り組んでいく所存であります。

平成22年6月7日

大分県教育委員会委員長 林 浩昭